



新入生も本格的に湯梨浜中学校のなかま入り（対面式）

4月14日（金）3限目、在校生と新入生の対面式が行われました。在校生が残念ながら出席できなかった入学式の代わりに、校歌斉唱、在校生代表の言葉等で、新入生の入学を歓迎しました。対面式の後は、生徒会執行部の紹介、生徒会活動全体・委員会活動の説明が行われ、新入生も今後生徒自らが運営していく本校生徒会に関して理解できたのではないかと思います。今後は、3学年協力してこれまで以上に充実した生徒会活動を運営していってもらいたいと期待しています。



保護者の皆様へのお願い

1年の始まりに際して、保護者の皆様に次の5点についてお願いします。

- ① **子どもが成長するにあたって一番の味方は保護者のみなさん**であり、学校内では我々教師であると考えています。我々周りの大人が、子どもたちにとって真の味方でなければ子どもは成長できません。よく言われる言葉に、「子どもをダメにするのは簡単である。欲しがるものを与え、すべて子どもの言うとおりにすればいい」というものがあります。何かを買うとき、何かをさせるとき、それが本当に子どものプラスかどうかを考えてみてください。スマートフォン、ゲーム等が子どもの成長のマイナスになるケースが増えていきますので、よろしくお願いします。
- ② 子どもが中学生になったから自主性に任せると言って、ほったらかしにしないでください。肝心なときに子どもは言うことを聞かなくなります。小学校の延長で何もかも面倒を見すぎないでください。いざというときに自分で何もできない人間になってしまいます。**子どもの行動はしっかりと見て、褒めるべきことは褒め、しかるべきことはしかれる保護者であっていただきたい**と思います。
- ③ 我々人間は時に自分に都合のいいことを言ってしまうものです。「みんなが持っている」「みんなそうだ」「〇〇さんが悪い」などの言葉に対して、**子どもの言うことを信じてやりつつも、冷静な目で真実をしっかりと見極めるように努めてください**。褒めるべき時、しかるべき時を誤ってしまうと、子どもの成長の邪魔になってしまいます。
- ④ 子どもは家庭と学校、地域で育てるものです。学校と、家庭が互いの悪口を子どもの前で言うのはやめましょう。**学校では親の思い、大切さ、ありがたさを子どもたちに伝えていきます。ご家庭でも、絶対に子どもの前で学校の悪口、教師の悪口を言わないでください**。子どもは学校や教師の言うことを聞かなくなります。そのことは、ご自身のお子様の成長にとって大きなマイナスになります。もし、疑問・ご意見がある場合は、直接学校にご連絡ください。（裏面に続く）

ホームページで日々の学校生活の様子を紹介しています。

<https://www.torikyo.ed.jp/yurihama-j/>



- ⑤欠席の時には、必ず保護者の方が7:50～8:10の間に学校(47-5500)に連絡をしてください(マチコミメールの「お休み連絡」を利用していただいても結構です)。また、本校は校区がとても広く、欠席時に友達が時間割を届けたりすることができない生徒がいます。そこで本校では、**欠席をしたときには生徒自身が自分で友だちに次の日の連絡を聞く**ことになっています。もし、友達の連絡先がわからない、友達に連絡がつかない時には、18:00までに学校に連絡をして聞いてください。

修学旅行を前に3年生のみなさんへ～保護者の方への感謝の気持ちを行動に～

今から20年ほど前に出会ったある中学3年生Aさんという男子生徒の話をします。Aさんの家庭は母1人子1人で、母親は我が子のために毎日一生懸命に働いていました。しかし、生活はかなり苦しい状況でした。2年生の3学期、修学旅行の申し込み用紙を学校が配付しました。母親は何とか修学旅行に行かしてやりたいと考えていましたが、Aさんは自ら「お母さん、僕、修学旅行には行かなくていいよ。そんなに行きたいとは思わないから」と答えたそうです。結局、提出された修学旅行の申込用紙には「欠席」に○がされていました。その申込用紙を受けとった担任の先生はAさんに話を聞いてみました。それでわかったのはAさんは「修学旅行に行きたい」、「母親のことが心配で行きたくないと答えた」ということでした。先生たちは相談をして、Aさんが何とか修学旅行に行けないかと考えました。そして考えたのが修学旅行費の分割払いという方法でした。担任の先生は、Aさんの本当の気持ちを母親に伝え、分割払いという方法も提案しました。母親はすぐに了解をしてくれました。Aさんは学年の仲間とともに修学旅行に行けることになったのです。

4月になり、いよいよ修学旅行が目前に迫ってきました。先生たちにはひとつだけ不安がありました。Aさんが修学旅行当日のお小遣い(8000円)を持ってこられるかどうかという不安でした。先生たちは相談しました。「修学旅行最中に1人だけお小遣いがないというのは、あまりにも可哀想である。お小遣いを先生たちで準備し、後から少しずつでも返してもらうことにしよう」、そう決めたのです。修学旅行当日、担任の先生がAさんに「Aさん、お小遣いはどうした?」と声をかけました。



するとAさんが、「うん、お母さんが『これ持って行け』って言って3000円もくれたんだ。いいでしょう。これでお母さんにお土産を買って帰るんだ」と答えたのです。本当に嬉しそうな表情で自慢げに話をしているAさんの姿を見て、勝手に心配してお小遣いの準備をしていた先生たちはとても恥ずかしい思いになりました。修学旅行から帰ってからその話を母親にすると、「先生、息子を修学旅行へ行かせて良かったと思います。本当にありがとうございました」と言ってくださいました。Aさんは修学旅行の代金以上のものを、母親にプレゼントできたのではないかと思います。

Aさんのお母さんが喜んだのは、Aさんがお土産を買ってきてくれたからではありません。修学旅行を通して息子の温かさを感じたからであり、息子の感謝の気持ちが伝わったからだだと思います。今年の3年生のみなさんの修学旅行に必要な金額は、お小遣いを合わせると6万円近くになります。6万円というのはそう簡単に稼げる金額ではありません。それでも保護者の方はみなさんのためにそれを準備してくださいました。みなさんにもこの修学旅行に際して、保護者の方へ感謝の気持ちをしっかりと伝えてもらいたいと願っています。

着任のお知らせ

本日、育児休暇をとられる音楽の谷川権治先生の代員として、尾西美弥子先生が着任されました。よろしくお願いします。